

世代間交流にみる諸活動について

仙台市泉区副区長 鳴 海 渉

1 地域文化とレジャー・レクリエーション活動について

21世紀の新しい次代を担うスポーツレクリエーション活動は、国主導のもと一定の成果を見ることができたが、今後は、より地域に密着した活性化を図る必要がある。

(1) 地域文化について

地域に根ざした伝統芸能や文化は、日本古来の組織を活用して、後継者不足とも言われながらも続いてきている。それは、日本古来の集落単位の古代宗教行事にも根ざした「契約講」という義理とも人情とも言える互助組織が機能して、地域を支えてきた。この仙台地方で言えば福岡の鹿踊りのように高度なテクニックを要求されるものも、血縁、地縁といわれるものが、地域文化を支えてきた。

(2) レジャー・レクリエーション活動の普及について

レジャー、レクリエーションは、戦後の復興期に、余暇活動のひとつとして日本では普及をみたが、一時の大きな広がりには、バブルの崩壊とともに国も地方自治体も財政難に陥り、余暇活動などに多額の財政支出をし続けることができない状況となっている。特に、住民の要望に沿った施設整備が困難となっており、そうした意味からはソフト面で本来の市民活動に根ざした活動が求められるようになった。

ある意味では今が試練の時期であり、いかに市民が豊かな人生を過ごせるかという最大の関心事には、地域資源をフルに活用したレジャー・レクリエーションの必要性が高まっている。

2 総合型地域スポーツクラブをととしての世代間交流について

(1) 総合型地域スポーツクラブの設立目的について

平成12年9月に文部科学省は、総合型地域スポーツクラブの立ち上げについて、提言を行い、全国にその普及を目指すこととなった。これは少子・高齢化と都市の空洞化をどのように乗り切るかという命題に基づきドイツを中心としたスポーツクラブを参考に作られたもので、単一競技に偏ることなく子供から高齢者までを包含した運営、指導体制がとられ、サロンなども設置されることなど地域を上げての交流の場としての活用を図ることが求められている。

(2) 総合型地域スポーツクラブの立ち上げ状況について

総合型地域スポーツクラブづくりが全国各地で始まっているが、全体的に見れば胎動期といっていい状態である。仙台においても今2、3ヶ所程度その立ち上げに向かって動き始めているが、現在は、クラブ設立のための趣旨説明が主流となっており土台作りの段階にある。

3 総合型地域スポーツクラブの定着化と世代間交流の促進について

総合型地域スポーツクラブの定着化には、世代間の交流をどのように結び付けていけるかがひとつのポイントになる。多くの高齢者と児童・生徒を機能的に結び付けるには相当の努力が要求されるが、その担い手ともなる中間層の醸成がなされていない今、どうするかが最大の課題となっている。

課題解決策としては、クラブを中心的に運営するマネジメントする層への教育がひとつのポイントとなるものと考えられる。これまで単一競技を主体として活躍してきた指導者層をどのように取り込み、魅力ある活動にするかは競技指導者ではなくクラブを運営企画するマネージャーの技量にかかっている。PC時代の子供にスポーツの面白さをどう伝えていくかは、単に、競技主体の運営だけでは難しい時代となっている。レジャーやレクリエーションをうまく取り込みながらサロンとしての機能を発揮させ、世代間の交流を促進させていくためには、マネジメント教育が今後の普及を進めていくうえで是非とも必要なものである。